

# 主な学習要素（夙川流域）

## 1. 甲山



### 【神様の山】

- ・名前の由来は、「兜」の形に似ているからとの説もあるが、「神の山」が転じたのではないかと考えられている。
- ・麓に位置する神呪寺の名前の由来、「神呪」は神の尾、神山のなだらかなすそ地の意味とされる。

### 【1200万年の山】

- ・甲山をつくっている岩石は、安山岩の一種でサヌカイトと呼ばれ、その火山活動期から約1200万年前に生まれた山だと分かっている。

### 【みどりのシンボル】

- ・森林は保安林指定を受け保全され、悠久の自然を身近に感じられる西宮のみどりのシンボルとなっている。



## 2. 御前浜・香櫨園浜



### 【神功皇后が上陸した御前浜】

- ・神話の中の人物「神功皇后（じんぐうこうごう）」が、朝鮮に出兵したおり、難波への帰り船が進まなくなって、務古の水門（むこのみなど）に上陸した浜辺が「御前浜」である。

### 【海水浴場があった】

- ・明治40年に、香櫨園浜海水浴場が開設された。香櫨園遊園地から移築された演芸場、音楽堂やローラースケート場もあり大いに賑わった。
- ・海水浴場開設を機に「御前浜」は「香櫨園浜」と呼ばれるのが一般的になった。

### 【日本最初の水上飛行】

- ・明治45年に、香櫨園浜や西宮浜において、米港人アットウォーターによる日本初の海上飛行が催された。



## 3. レクリエーション施設



### 【香櫨園遊園地】

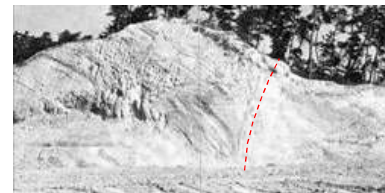
- ・神戸大阪間の阪神電鉄開通が明治38年。
- ・明治40年、現在の阪急夙川駅の西側一帯に、夙川の美しい風景を生かした巨大な遊園地「香櫨園遊園地」が開設。
- ・園内には、動物園、博物館、音楽堂を設け集客を図り、片鉾池にはウォーターシュートを設け、一大レジャーランドが作られた。



### 【苦楽園温泉】

- ・香櫨園遊園地が幕を閉じた大正2年、苦楽園の「苦楽園温泉」が誕生した。
- ・大隈重信が「東洋一のラジウム温泉」と謳ったこの温泉は、政財界人、文化人の中で評判となり、阪神香櫨園駅から馬車で苦楽園に向かう人が絶えなかったという。

## 4. 断層露頭



甲陽断層(昭和34年撮影)

### 【甲陽断層の断層面】

- ・西宮と芦屋の境界付近、阪急沿線ぞいの小高い丘（高塚山）の西側斜面には、工事の際、甲陽断層が見つかった。
- ・ここでは、断層運動によって、地層が曲がり、断ち切られている様子が観察されている。



土砂などがたまり積もってきた層(年代は調査中)

細かく砕けた花こう岩

断層

調査中の様子(平成20年3月)

### 【五助橋断層が地表に出ているところ】

- ・芦有ドライブウェイの芦屋と西宮の市境付近で、五助橋断層が地表に出ているところが発見されました。

## 5 . 北山公園



### 【自然散策コース】

- ・北山公園・北山緑化植物園は、総面積5.5haの自然の地形を生かした植物園で、温室、バラ園、あじさい園、桜の園、ハーブや食用植物の植えられたキッチンガーデン、葉草園など四季を通じて花や植物を楽しむことのできる。

### 【ロックヒル】

- ・散策コースの途中にある岩場（ロックヒル）からは、西宮市街地や六甲山地の平坦面が一望できる。



## 6 . 満池谷累層



### 【累層とは？】

- ・ある時代の地層を、最も大きなまとまりとして「層群」と名づけている。
- ・層群は、いくつかの累層にわけられ、その模式的な地層の分布する地域の名前で「満池谷累層」などと呼ばれる。

### 【西宮にも氷河時代があった】

- ・満池谷累層は、ラリックス層とも呼ばれ、大社中学校北東の地層を形成している。
- ・昭和16年、メタセコイアの研究で知られる三木茂博士が、西宮に現存しないグイマツ、シラカンパ等の寒地性植物(寒冷な気候のなかで生育する植物)の遺体を発見された。
- ・このことは、西宮に氷河時代があったことを証明している。

## 7 . 阪神・淡路大震災



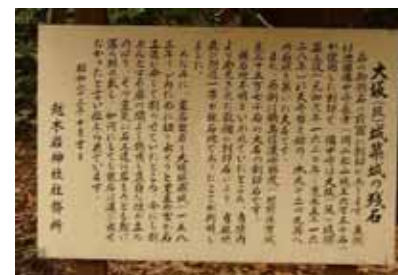
### 【兵庫県南部地震】

- ・平成7年1月17日5時46分、淡路島北部を震源とする兵庫県南部地震が発生し、一瞬にして市民の日常を奪い去った災害が「阪神・淡路大震災」である。
- ・市街地では、建物の倒壊や道路のへこみのほか、火災や崖崩れなども発生した。
- ・西宮市内の犠牲者は1,146人、倒壊家屋61,238世帯で、水道、ガス、電気のない生活の中、避難所は最大時194ヶ所、避難者数は最大時44,351人だった。

### 【液状化現象と地盤沈下】

- ・埋立地やその周辺では、地盤の液状化の影響で、地盤沈下や道路の陥没があったほか、アスファルトやコンクリートの地面を破って、砂といっしょに大量の水が噴出するなどの被害が発生した。

## 8 . 刻印石



### 【城石と刻印】

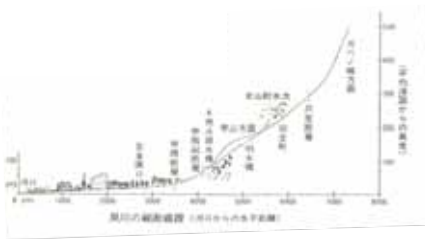
- ・石にノミで刻み込まれた大名の家紋や文様、記号を「刻印」という。
- ・城石の刻印により、誰が採石したか、誰が石垣を作ったかがわかり、それにより助役大名が決められたという。

### 【西宮の刻印石】

- ・西宮には、良質な花崗岩を産出することから、大阪城修築に使われた城石の石切場が多くあり、残石（刻印石）が残っている。
- ・刻印石は、越木岩神社(写真)、浜脇小学校、一本松地藏(常磐町)、海清寺、甲子園浜海浜公園で見ることができる。



## 9. 夙川



### 【日本有数な急流】

- ・夙川は、水源から河口まで約8kmの短い川である。
- ・水源地の剣谷山の標高は565mなので、これだけの高さを一気に下る、日本でも有数な急流なのである。

### 【天井川】

- ・都市化の過程で河川の流路が堤防などで固定されると、川の堆積作用により河床が高くなり、周囲の平野部より高くなると「天井川」になる。
- ・夙川は、代表的な天井川である。

### 【宿場の川】

- ・昔、阪急夙川駅から阪神香櫛園駅あたりは、西国街道と中国街道が出会う地点で宿場町であった。
- ・「夙川」はもともと「宿川」であったといわれている。



## 10. 地下水



### 【伏流水】

- ・六甲山地を起源とした地下水は、夙川や武庫川でできた沖積平野の下を流れている。
- ・南部市街地の地下水は、川の上流の砂礫層から地下の砂礫層を流れるもので、「伏流水」と呼ばれている。

### 【宮水も六甲山系の地下水の一つ】

- ・西宮の太古の地形は、現在とは大きく違っており、現在のJR西宮駅あたりまで入り江が入り込んでいた。
- ・昔、海だったところを流れる伏流水は、海ミネラル分を吸収し、その後酸素をたくさん含んだ伏流水と合流し、酸素の作用で鉄分は沈殿し除去される。
- ・その下流で、ミネラル分は豊富で、鉄分が極めて微量な水が湧出する。これが「宮水」である。

## 11. 夙川公園



### 【美しい夙川公園】

- ・夙川は、河川敷全体が公園として整備された、阪神間でも類を見ない都市公園で、市民の憩いの場となっている。延長は4km(上流緑道含)、開設面積は20.8ha。
- ・とりわけ、桜並木と松林は昔ながらの美しさを今に伝えている。

### 【三つの道】

- ・公園へと続く川沿いの道路は「夙川オアシスロード」、公園沿いの道は「夙川さくら道」、越木岩橋から上流の銀水橋までは「夙川上流緑道」といい、市民に親しまれている。

### 【12ヶ所の飛び石】

- ・夙川公園の魅力の一つに「飛び石」がある。右岸、左岸を意用に移動することができる。



## 12. 夙川の桜並木



### 【夙川公園の桜の歴史】

- ・昭和24年に、1000本の桜の若木が植樹され、既存の松林に加え、現在のような松と桜が美しい、独特な景観を呈するようになった。

### 【日本桜名所百選】

- ・「夙川公園・夙川河川敷緑地」は、兵庫県では、「姫路城」「明石公園」と並んで日本桜名所百選に選ばれている。

### 【西宮市オリジナルのサクラ】

- ・「夙川舞桜」  
夙川周辺のいろいろなサクラから自然交配によってでき、平成11年に確認され、市民の投票により命名された。
- ・「西宮権現平桜」  
日本一の山桜と絶賛された和歌山県紀伊富田の権現平桜に由来する苗を譲り受け、バイオ技術で増殖された。



### 13. 水車産業



#### 【酒造りと水車】

- ・江戸時代中期から幕末にかけて、酒造りの精米方法は、足踏み精米から水車精米へと全国的に躍進したと見られる。
- ・灘では、他の地方に先駆けていち早く水車精米に切り替え、大量処理が可能となるだけでなく、高精白となり酒質が飛躍的に向上した。



#### 【夙川の急流を利用した水車】

- ・夙川水系を利用する水車は20箇所を超え、なかには140～180臼を備えた大きなものもあった。(足踏み：1人1日で4臼の精米といわれている)
- ・大井手橋北側の夙川公園の遊歩道に、水車が復元されている。

### 14. 西田公園



#### 【万葉植物苑】

- ・園内に「万葉植物苑」があり、万葉研究家の故犬養孝先生の指導のもと、万葉集に登場する約72種類の植物が植えられている。
- ・各植物の前には現在名と万葉名、厳選された万葉の歌や、その植物の花や実の素晴らしい季節などが陶器製の説明板で紹介されていて、目の前の万葉植物を見ながら万葉の世界を堪能することができる。



### 15. 西宮神社



#### 【えべっさん】

- ・「えべっさん」と親しまれている福の神「えびす様」の総本社として、全国から遍く崇敬を集めている西宮神社は、その地名の由来ともなっている。

#### 【えびすの森】

- ・甲子園球場がすっぽり入る境内社叢(約13,000坪)は、都会に残る緑の宝庫として県の天然記念物に指定されている。

#### 【主な祭典】

- ・十日えびす (1月9日～11日)
- ・太々神楽祭 (5月1～6日・10日)
- ・おこしや祭 (6月14日)
- ・夏祭 えびす万灯籠 (7月20日)
- ・例祭 西宮まつり (9月21日～23日)
- ・誓文祭 (7月20日)



### 16. 越木岩神社



#### 【切り出しを拒んだ巨石】

- ・社殿奥に、社名や地名の由来となった「甑岩(こしきいわ)」と呼ばれる巨石を祭っている。(高さ10m、周囲30m)
- ・甑とは、酒造りに使う米などを蒸す道具で、巨石の形がそれに似ている。
- ・この岩は、豊臣秀吉が大坂城を築城した際切り出されようとしたが、白煙をあげて鶏鳴し石工たちに手を出させなかったと伝えられている。

#### 【森におおわれた神社】

- ・境内にあるヒメユズリ八群落は県の天然記念物、社叢は市の景観樹林保護地域に指定されている。





## 17. 甲陽大池



### 【上ヶ原大地の農地利用】

- ・甲陽大池は、上ヶ原大地の田に水を引くため江戸時代に作られたため池。
- ・現在では、ため池の必要性が減ったため一部が埋め立てられ、甲陽園小学校となっている。



### 【約20種類のトンボ】

- ・池の周りが公園になっていてスイレンや黄菖蒲が観察できる。
- ・5～11月にかけては、約20種類のトンボを見ることができる。
- ・春には、冬鳥と夏鳥が交代する様子も見られる。

## 18. 北川貯水池



### 【市民の水がめの一つ】

- ・北山貯水池は、急速に開発が進む南部丘陵地域の水需要に備えるため、昭和43年に完成した人造湖。
- ・仁川を主な水源とし、湯ノ口取水口から1.5km導水管で引いてきている。



### 【豊かな自然環境】

- ・北山貯水池は水鳥や野鳥も多く、秀麗な甲山の山容を湖面にうつし、湖岸の道路は甲山森林公園、北山植物園、名刹甲山神呪寺、鷲林寺に通じ、散策・ハイキングに最適である。
- ・周辺に植樹した梅や桜も年々美しさを増して、さらに遠く大阪湾を望む素晴らしい景観が四季を通じて楽しめる。

## 19. 甲山森林公園



### 【明治百年・兵庫県百年の記念】

- ・甲山森林公園は、甲山の大部分とその山麓に広がる、明治百年・兵庫県百年の栄光を讃えてつくられた記念公園である。
- ・園内には、シンボルゾーン（愛の像、笠形噴水、彫刻の道）、野外ステージ、広場、甲山自然観察池などが整備されている。



### 【緑の宝庫】

- ・全体の約90%が樹林で覆われており、春は桜・ツツジに新緑、秋は紅葉と自然豊かな公園で、多くの野鳥も観察できる。
- ・昭和50年10月「兵庫森林浴50選」平成元年7月「日本の都市公園百選」平成11年7月「阪神・淡路百名所」に選定されている。

## 20. 宮水発祥の地



### 【宮水】

- ・宮水は「西宮の水」を指し、鉄分が少なくリンやカリウムなどのミネラル分を多く含み、酒造りに適した地下水として知られている。
- ・宮水は、西宮神社の南東ごく限られた範囲でしか湧き出なく、この場所を「宮水地帯」という。
- ・昭和60年、環境庁により「名水百選」に宮水は選定された。



### 【宮水発祥之地の碑】

- ・「天与の霊水」といわれる宮水は、魚崎郷の山邑太左衛門によって発見されたといわれている。山邑氏の梅の木蔵井戸跡に「宮水発祥之地」の碑が建立されている。

## 2 1 . 宮水庭園



### 【宮水井戸】

- ・西宮神社の南東ごく限られた範囲の「宮水地帯」には、井戸場が集中しており、各酒造会社専用の井戸からさかんにくみ出されている。
- ・宮水の源である宮水井戸を、大関・白鹿・白鷹の酒造会社3社がそれぞれ一部提供し、共同で修景整備したのが「宮水庭園」である。



### 【西宮市都市景観賞】

- ・宮水庭園の宮水井戸場修景は西宮市都市景観賞を受賞している。それぞれの井戸には、ステンレス製の半球型の覆いが被せられ、夜はライトが灯り幻想的な風情を見せる。

## 2 2 . 白鹿記念酒造博物館



### 【施設概要】

- ・辰馬本家酒造が創業320年を記念して昭和57年に設立し、「記念館」と「酒蔵館」から成る。
- (休館日：火曜日)

### 【記念館】（写真上）

- ・日本酒に関連する美術品や文献資料を常設展示しており、春と秋には企画展を開催。また「笹部さくら資料室」を付設。



### 【酒造館】（写真下）

- ・酒造りの道具・資料を展示するとともに釜場・槽場跡の遺構を公開し、酒造りの歴史と技術を紹介。

## 2 3 . 環境学習都市

### 【環境学習都市宣言】

- ・西宮市は、環境学習をキーワードとした持続可能なまちづくりを進めるため、平成15年12月全国初の「環境学習都市宣言」を行った。

### 【地球ウォッチングクラブ・にしのみや】

- ・平成4年、小学生を対象とした環境学習事業「地球ウォッチングクラブ・にしのみや（EWC）」をスタートさせた。
- ・その取り組みは、平成7年当時の環境庁の子どもエコクラブの基本モデルになった。
- ・平成10年、EWCエコカード活動を開始し、子どもたちの環境活動を地域で支えるまちの仕組みを確立した。



## 2 4 . 西宮市大谷記念美術館



### 【施設概要】

- ・実業家の大谷竹次郎氏から西宮市に寄贈された近代絵画を中心とした美術品と邸宅をもとに昭和47年に開館した美術館。
- (休館日：水曜日)

### 【イタリア・ボローニャ国際絵本原画展】

- ・毎年行われる「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」は子供たちからお年寄りまで幅広い年齢層の来館者があり、多くの人々に楽しまれ、親しまれる展覧会として有名。
- ・この他に、毎年2～4本の企画展を開催。





## 25. 西宮市立郷土資料館



### 【施設概要】

- ・郷土の考古、歴史、民俗などの資料を収集、保管、展示している。
- ・常設展示は、「西宮の歴史」をテーマに実物資料をはじめ、模型やジオラマなどを使った多彩な構成で、郷土発展の姿を浮き彫りにしている。

西宮市教育文化センター 1階  
(休館日：月曜日)



### 【歴史講座、歴史ハイキングなど】

- ・1年1度の特別展や企画陳列のような展示会の他、歴史講座や親子で行く歴史ハイキングなども企画。

## 26. ニテコ池



### 【西宮神社大練堀の土の掘り跡】

- ・ニテコ池は、南北に並ぶ3つの貯水池の総称。
- ・昔、西宮神社の大練堀を造るときに、土を掘り出した跡が池となった。
- ・土を運ぶときに「ネットコイ、ネットコイ」とかけ声をかけ、それが訛って「ネテコ、ネテコ」になり、「ニテコ、ニテコ」になったといわれる。



### 【火垂の墓】

- ・野坂昭如の著書「火垂の墓」には、太平洋戦争末期、ニテコ池のほとりの防空壕で暮らした兄妹の姿が描かれている。

## 27. 広田神社



### 【県下有数の歴史と格式】

- ・古くは「日本書紀」にもその由緒が記される広田神社は、県下有数の歴史と格式をほこる神社である。
- ・屋根の上に並べられた鯉木(かつおぎ)の数は、由緒ある神社ほど多く広田神社は7本。ちなみに、伊勢神宮は10本、出雲大社は3本である。

### 【くらしを支えたいのちの水】

- ・境内から裏山への遊歩道脇に「兜籠底績碑(とろくていせきひ)」がある。
- ・江戸時代に、大社村へ農業用水として仁川の水を引く水路工事を、成功に導いた中村紋左衛門の功績を称えた碑。

### 【町なかの貴重な自然環境】

- ・境内や広田山公園には、県の天然記念物であるコバノミツバツツジが群生している。



## 28. 海清寺



### 【西宮市を代表する禅宗寺院】

- ・海清寺は、応永元年(1394)無印宗印により開かれたと伝えられ、臨済宗妙心寺派の名刹で、禅堂として多くの禅僧を育ててきた。

### 【海清寺の大クス】

- ・海清寺門前にある楠の巨木は、県の天然記念物に指定されており、周辺の都市景観を潤いのあるものになっている。(幹周5.83m・樹高35m)

### 【海清寺の南天棒さん】

- ・「海清寺の南天棒さん」という民話が残っている。いつも南天の木で作った棒を持ち歩き、教えを受けにくる人をそれでたたいてきびしく教えるお坊さんのはなし。





### 29 . 旧西宮砲台



#### 【黒船来襲への備え】

- ・幕末に、黒船来襲を恐れた徳川幕府が、軍艦奉行勝海舟の勧めで建造した砲台の一つ。
- ・高さ12m、周囲53mの3層構造の石造りで、2階側面に11個の砲眼を持つ。



#### 【実戦には一度も使われなかった】

- ・据えられた大砲二門は全方向に発射が可能で、大阪湾を異国から守るという重要な役割を担うはずだった。
- ・ところが、完成後に試し撃ちしたところ、砲煙が内部に充満。実用に適さないことが判明し、一度も使われることがないまま明治維新を迎えた。

### 30 . 今津灯台



#### 【灯明台】

- ・今津の酒造家長谷部家五代目長兵衛により、今津港に出入する樽廻船や漁船の安全を願い、文化7年(1810)に灯明台が建てられた。それが今の「大関酒造今津灯台」(公認名称)の起源。

#### 【現役最古の木造灯台】

- ・外観は、昔のままの木造あんどん式である。当時、四面は油紙障子で囲われていた。
- ・大正初めには、電化され油紙障子も取られた。現在は、戸外の明るさに応じて自動点火するしくみとなっている。



### 31 . 六角堂



#### 【今津小学校】

- ・六角堂は、明治15年(1882)に当時の今津村、津門村の寄付などにより、今津小学校の独立校舎として建てられた、木造2階建の建物である。
- ・洋式の小学校建築としては、日本で2番目に古いものといわれている。

#### 【西洋作りの浜の学校】

- ・洋風のモダンな建築で、正面玄関上の六角形の塔屋が人々の目を驚かせたという。
- ・当時としては大変めずらしいので、遠くの人々が弁当持ちで見物に来たそうです。



### 32 . 大観楼跡



#### 【大観楼】(たいかんろう)

- ・大観楼は、江戸時代中期の宝暦5年(1755)に里人たちが学ぶ塾として設立された。
- ・これを建てたのは、今津の酒造家飯田桂山で、当時社会事業家としてもよく知られており、教育や文化の発展に大きな影響を与えた。

#### 【大観という名前】

- ・学舎は、風光明媚な今津海岸近くに建てられた。そこからは摂津・和泉・紀伊・阿波・淡路などが遠望できたことから「大観楼」の名がつけられたといわれている。

### 33. 傀儡師故跡



#### 【傀儡師】（くづつし）

- ・傀儡師というのは、操り人形を使って大道芸をする人々のこと。
- ・傀儡師の芸から人形浄瑠璃が生まれたと伝えられている。

#### 【えべっさんは西宮から全国へ】

- ・戦国時代から江戸時代初期にかけて、傀儡師は西宮神社に出入し、えべっさんのご利益などを演題に各地を巡った。
- ・その結果、全国にえべっさん信仰が広まった。

### 34. 御輿屋伝承地



#### 【蛭子神伝説地の碑】

- ・「蛭子神（ひるこしん）」とは「えびす様」のこと。
- ・民話によると、鳴尾から西宮神社へ移動する途中に、疲れて昼寝をしたところが、石碑の建っている所だと伝えられている。



#### 【おこしや祭り】

- ・6月14日には、西宮神社から御神輿が出て、ここで「おこしや祭り」が行われる。

### 35. お祭り



#### 【十日えびす】（西宮神社：1月9～11日）

- ・年の始めに商売繁盛を祈願するお祭りとして知られている。
- ・10日午前6時の大太鼓を合図に表大門が開かれると、待ち構えた参拝者が本殿へ走り参りを行い、到着順に一番から三番までが「福男」に認定される。

#### 【西宮さくら祭】

- ・「さくら」が市花として制定された翌年の昭和41年から始まったお祭りで、毎年さくらの開花時期に夙川公園周辺で開催される。

#### 【だんじり】

- ・9月21～23日の西宮まつり(西宮神社)と秋祭(越木岩神社)では、「だんじり」が巡行する。
- ・7月31日の夏祭(住吉神社)では、大震災のため一時中断されていた「船だんじり」が復活されている。



### 36. 夙川・御前浜等での活動

#### 【自然観察】



#### 【清掃活動】





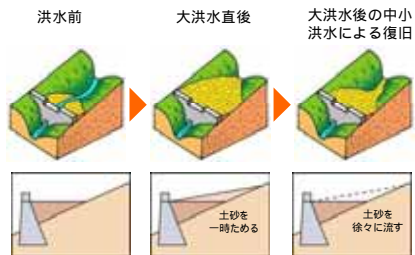
### 37. 越木岩堰堤



#### 【砂防施設の代表的なもの】

- ・昭和13年の阪神大水害をきっかけに、国が直接行う六甲山地の砂防事業が始まり、西宮市においても、越木岩堰堤や北山堰堤などの工事が始まった。
- ・越木岩堰堤は、夙川流域で最初に整備されたもので、夙川上流緑道沿い（銀水橋下流）から見学できる。

#### 【砂防えん堤の仕組み】



### 38. 震災記念碑公園



#### 【あの日を決して忘れない】

- ・阪神・淡路大震災の教訓を風化させることなく後世に伝えるとともに、震災で犠牲になった方々の追悼の場とするために整備された公園。

#### 【西宮市犠牲者追悼の碑】

- ・園内には「西宮市犠牲者追悼の碑」が設置され、黒御影石の銘板には犠牲者1,084名の名前が刻まれている。
- ・碑の左右に碑文と震災記録が、また、震災写真の陶板が碑を取り囲むように置かれている。

### 39. 地すべり資料館



#### 【施設概要】

- ・この資料館には、阪神・淡路大震災の経験から自然の恐ろしさと土砂災害のしくみを学ぶためのビデオや写真、また地すべり対策工事のしくみがわかるジオラマ模型などを設置している。

（休館日：月・木曜日）

#### 【大震災の土砂災害で最大被害】

- ・阪神・淡路大震災で発生した土砂災害のうち、最も大きな被害が出たのが仁川百合野地区。
- ・仁川右岸の斜面で約100m四方に亘って地すべりが発生し、約10万<sup>3</sup>土砂が滑り出し、仁川を埋めるとともに、家屋13戸を押しつぶし、多くの犠牲者を出した。

### 40. 六甲山系グリーンベルト

- グリーンベルト対象区域
- 市街地に面する斜面



#### 【グリーンベルトとは】

- ・兵庫県南部地震によって、六甲山地のいたる所で、斜面がぐずれたり地割れが発生し、その後の雨によってぐずれた所はさらに増加した。
- ・地震によってゆるんだ地盤は、その後の大雨などによる土砂災害の危険性があるため、六甲山地を1つの樹林帯（グリーンベルト）として育てている。

#### 【市民参加の森づくり】

- ・グリーンベルト整備事業では、植樹体験教室などの市民参加の森づくりも進めている。